平成 29 年度第 4 回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」 「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成 29 年 10 月 31 日（火）午後 6 時 30 分～8 時 00 分

会場：墨田区役所 12 階 121 会議室

1 次 第

(1) 開会

(2) 議題

ア 委員紹介並びに会長及び副会長の選任について

イ 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」中間年度見直しによる改訂（案）について

2 報告事項

(1) 墨田区保育所等整備計画の見直しについて

(2) 子どもサロンの廃止について

(3) 子育てアプリのアンケート結果について

(4) 平成 30 年保育施設利用申込みについて

(5) 認証保育所保育料負担軽減助成金の改正について

(6) 協同的学びプロジェクトの公開保育について

(7) その他

3 配布資料

資料 1 委員名簿

資料 2 「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会に関する要綱」・「墨田区子ども・子育て会議条例」

資料 3 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」
中間年度見直しによる改訂（案）

資料 4 墨田区保育所等整備計画の見直しについて

資料 5 子どもサロンの廃止について

資料 6 子育てアプリのアンケート結果について

資料 7 平成 30 年保育施設利用申込みについて

資料 8 認証保育所保育料負担軽減助成金の改正について

資料 9 協同的学びプロジェクトの公開保育について

追 加 養育家庭体験発表会及び児童虐待防止講演会について

4 委員

(1) 出席委員（敬称略）

大豆生田 啓友（玉川大学大学院教育学研究科教授）

野原 健治（社会福祉法人興望館常務理事）

長田 朋久（横川さくら保育園長）

西島 由美（にしじま小児科院長）

服部 榮（社会福祉法人雲柱社理事長）

小林 恵子（両国子育てひろば施設長）

押田 剛（主任児童委員）

小川 政美（吾孀立花中学校PTA会長）
内田 淳（青少年委員協議会委員）
根里 美佐（豎中地区青少年育成委員会委員長）
小菅 崇行（東京商工会議所墨田支部副会長）
佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）
賀川 祐二（NPO 法人病児保育を作る会代表理事）
宮村 柚衣（ちゃのま保育園代表）
佐藤 達也（公募）
関 舞衣子（公募）
田中 千春（公募）
横井 貴広（公募）
渡邊 圭三（東吾孀小学校長）
桂本 圭子（寺島保育園長）

(2) 欠席委員（敬称略）

岡田 真（江東学園幼稚園園長）
高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科教授）
木村 美恵子（曳舟小学校PTA会長）
中村 信幸（連合墨田地区協議会議長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
西村 均（豎川中学校長）

5 傍聴：2名

6 事務局

(1) 部課長出席者

石井 秀和（子ども・子育て支援部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、高橋 義之（子育て政策課長）、金子 明（子ども施設課長）、村田 里美（子育て支援総合センター館長）

(2) 区職員

長尾、関根、坂田、高橋、岩佐、酒井、益田

(3) コンサルタント

株式会社名豊 渡邊

7 議事要旨

(1) 開会

事務局	これより開催いたします（委員出席状況と会議の成立、傍聴者の出席、記録用の写真撮影と録音の了承、以上を説明）。
-----	--

2 議題

(1) 委員紹介並びに会長及び副会長の選任について

事務局	委員紹介。事務局から、大豆生田委員の会長への選任を提案し、出席委員の全員が了承。また、会長からの推薦により、野原委員の副会長への選任を提案し、出席委員の全員が了承（資料1及び2）。
-----	--

(2) 「墨田区次世代育成支援行動計画 墨田区子ども・子育て支援事業計画」 中間年度見直しによる改訂(案)について

事務局	(資料2、報告事項(1)及び(2)について、説明)
会長	(子ども・子育て支援新制度、これまでの経緯等概略を補足説明) 公立保育園の認定こども園化について、地域の中心になる基幹園を設置する構想がありましたが、より質を向上させていくということで、位置付けの変更に伴い、民営化を凍結することが1つです。もう1つは、すみだ子どもサロンを閉じるということで、これらのことを反映した内容が記されています。また、この事業計画をつくるにあたり、メッセージを入れるか否かということについて、事務局からは委員の負担を考慮して掲載を見送りたいとの説明がありました。委員の皆さんより、ご意見をいただきたいと思います。
委員	5歳の子供が基幹園に通っておりますが、昨年とまったく違う効果が表れているので、お伝えしたいと思います。昨年と今年では、考える力がまったく違っているように思います。家に帰り「このような話合いをして、このようなイベントをしようと思う」という報告までしてくれます。基幹園はとても良いシステムだと思います。
会長	それは基幹園に限らず、各保育園で保育の質を高めるための取組をしていて、非常に努力された結果だと思います。
事務局	区では「協同的な学び」というものを推進しています。その保育園は、現在「協同的な学びプロジェクト」に取り組んでいます。
会長	墨田区では公立も私立も、保育園も幼稚園も、より良くしようということで「協同的な学び」、つまり小学校以降のアクティブラーニングにつながるように、子どもたちが主体的に対話的に深く学んでいくことを進めています。その保育園は、今年の実施対象園だったということです。基幹園とは関係がないかもしれませんが、大変うれしいご意見です。
事務局	協同的な学びプロジェクトについてのお話がありましたので、ここでご報告をさせていただきます。(資料9の説明及び合同発表会(平成30年2月26日)の紹介)
会長	この会議を通じて、例えば、乳幼児期であれば幼稚園や保育園の協同的な学びの保育を実践していこうということや、児童館では更に強化していこうという意見を発信しています。
委員	新しい委員の方は、以前の資料をお持ちでないもので、今後は差替えになった部分の対照表をつけていただけると分かりやすいと思います。 次に、子育てひろば事業の箇所数が記載されていますが、児童館内で実施しているものも含めて2か所です。子どもサロンは、子育てひろば的なことを民間の方が実施していたという理解でよろしいでしょうか。子育てひろばでは、1日の中で好きな時間に行けるということが重要なポイントです。児童館内のひろばでは、時間的な制限があるのではないかと思います。評価として人数だけで出されるというのは、いかがなのかと思いました。また、70ページの子どもの予防接種に「水痘」が抜けています。
事務局	ひろば事業の児童館での取扱いについては、これまでも「いつでも行ける、お母さんと小さな子どもさん、お父さんと小さな子どもさんの居場所」として、乳幼児事業は大変重要なものであるということを確認していただいています。そのうえで、児童館は小学生や中高生も使う場所だということで、「子育て世代がいつでも行ける安心な場所ではないのではないか」というご指摘をいただいています。 確かに児童館自体、非常に狭小なところもあり、手狭な場所をご利用いただく場合もあり

	<p>ますが、現在「児童館のあり方検討」を、学齢部会部会長と副会長を中心に行っています。児童館のあり方を検討する中で、その役割としては、乳幼児事業は大変重要なものであるとしています。ただ、安心して利用していただける場所としては、今後、スペースの確保も必要であるということで、質を向上し、必要な機能もそろえていくことの重要性を再度認識しています。あり方検討の中で、より使いやすいひろばとしていくために、どのようなことができるのか整理したうえで、役立つひろばとして児童館も位置付けていきたいと考えています。今後改めて、あり方検討のご報告はさせていただきます。</p>
事務局	<p>水痘の件につきましては、所管課に確認のうえ、記載を修正したいと思います。</p>
委員	<p>2ページの「計画策定の背景と趣旨等」の下から2つ目の段落に「中間の見直しを行うにあたり」という文章で、「小学生の子どもをもつ保護者からは、児童館へのニーズの高まりがみられました。」とありますが、前回までの資料では「地域子育て支援拠点事業や児童館へのニーズの高まりがみられました。」とあります。「地域子育て支援拠点事業」が削除されたのは意図的な気がしますが、いかがですか。</p>
事務局	<p>その点について、ニーズ調査から素直に拾えるニーズの高まりという点では、ひろばというものは、明確に読み取れませんでした。</p>
委員	<p>小学生なので、ひろばはないと思います。そうではなく「地域子育て支援拠点事業」について、お聞きしています。</p>
事務局	<p>「地域子育て支援拠点事業」をひろばと呼んでいます。そのようなところも踏まえ、今回は正確な表現にさせていただきました。</p>
委員	<p>児童館よりも学童保育のほうが足りていないのではないのでしょうか。確かに、アンケートからは出てきていないと思いますが、今は学童保育の待機児童は大勢います。児童館だけを数に入れるということはいかがでしょうか。「放課後の学童」も加えたほうが正確な表現になると思います。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりだと思います。この部分には、「児童館や学童への」という記載も付け加えるか、事務局で検討させていただきます。</p>
委員	<p>すみだ子どもサロンについて、お聞きします。小規模保育所で、子育て支援事業を月に1回ほど実施しています。親子で手型とりに来ていただいたり、誕生会に参加していただいたりしています。1年以上続けていますが口コミで広がり、募集するとすぐに10人程度の申込みがあります。私どもの施設は小さいので、定員は5名くらいですが、ニーズはとて多いいと感じています。私自身も働く前には一時保育を利用していましたが、サロンが地域のコミュニティになっていることがよくわかりました。廃止するという事は、もう決定なのでしょうか。もし、継続を考えるのであれば、私どもでも検討したいと思います。そのような検討の余地もないのでしょうか。</p>
事務局	<p>すみだ子どもサロンについては、事業者の都合で来年3月までで廃止することが決定しています。9月にそのようなお申し出をいただきましたので、区としても検討を始めたところです。できればそれに代わるようなひろばの整備を検討したいと考えていますが、今のところ未定です。</p>
委員	<p>例えば、居ぬきで、次の事業者がそのまま利用することは可能ですか。</p>
事務局	<p>今の段階では、事業者が空き店舗等を探し、事業を展開し、そこに区が補助をするという現状の子どもサロンの形態は考えていません。</p>

会長	では、ある程度決まった段階で、ご提案いただけるということでもよろしいでしょうか。他にご意見等はございませんか。
委員	区民公募委員が4名ということですが、この名簿（資料1）によると全員が学齢ワーキンググループに入っています。前は、区民公募委員が半分ずつに分かれて、意見を反映させるようになっていたと思います。今回は、何か意図があって全員が学齢ワーキンググループに入っているのでしょうか。公募委員の子どもの年齢に合わせていただいただけでしょうか。私には、乳幼児の子どももいますので、必要であれば乳幼児ワーキンググループに参加いたします。
事務局	こちらは委員の方のお子様の年齢を参考に割り振りをさせていただきました。ご意見のとおり、バランスもよくありませんので、ご提案の件を再検討し調整させていただきます。
委員	私も1歳8か月の子どものおりますので、乳幼児ワーキンググループを希望いたします。
事務局	もしよろしければこの場で、他の委員もご希望をお伺いします。
委員	面接の際に、学齢ワーキンググループを希望しましたが、どちらでも結構です。前期には、アンケート調査やインタビュー等で、公募委員が活動していました。そのようなことが今回もあるのであれば、乳幼児ワーキンググループに移ります。
会長	4人ということで、バランス的には2名ずつがよいかと思います。
事務局	では、2名ずつの体制に修正させていただきます。
会長	それでは名簿（資料1）の修正をお願いします。他にご意見等はございませんか。
委員	76ページの75に「地域の空き店舗等を活用した子育て支援事業」に廃止とありますが、先ほどの説明では事業者の都合により廃止し、今後はこの事業を活用する予定はないということでした。何か不都合があったということでしょうか。理由があれば教えてください。
事務局	すみだ子どもサロンについては、「地域の空き店舗等を活用した子育て支援事業」ということで実施してきました。こちらの予算規模は1,500万円ほどです。この事業に関しては、区議会の中でも多少議論があり、他の地域ではもう少し安く民間を支援する事業もあるというようなご意見をいただいています。全般的にひろばのやり方を見直そうということで、どのような形態で実施していくのかを含めて、検討しています。今の事業に不都合がある訳ではありませんが、もう少し箇所数を増やし、規模を小さくする等も含めて検討したいと考えています。現在の形態は一旦廃止するという事です。
委員	要するにコストの問題ですね。
事務局	コストの問題も1つの要素ですし、南部以外に北部にも設置していくのかという地域的な要素も考えたいと思っています。
委員	たくさん設置すると、更にコストがかかるということですね。
事務局	単純に区が設置するというものではありません。
委員	事業者が空き店舗等を利用して運営したい、補助金は少なくともよいという場合もあるかと思いますが、そのような検討もされずに廃止ということでしょうか。空き家の規模によっては安いところもあると思います。この程度の予算で実施していくという事業者を集めるということはないのですか。
事務局	この事業に関しては、一旦は廃止させていただく方向で考えています。
会長	他にご意見等はございませんか。それでは議題2の中間年度の見直しによる改訂案につい

	て、いくつかご提案がありましたので、修正をお願いしたいと思います。また、報告事項(1)及び(2)はこれで終了いたしました。
--	---

3 報告事項

(3) 子育てアプリのアンケート結果について

事務局	(資料6について説明)
委員	アプリをつくる仕事をしていますが、「墨田区の子育て」というカテゴリのアプリを入れる方は割と少ないかと思います。既に世の中にあるライン等、皆さんが活用されているアプリに差し込んでいくほうが有効だと思います。

(4) 平成30年保育施設利用申込みについて

事務局	(資料7について説明)
委員	19ページの優先順位ですが、「墨田区内に引き続き住んでいる期間」が入っているかと思います。私の知合いに墨田区に長く住んでいましたが、数年間だけ離れて戻ってきた方がいます。このような方は特例にはなりませんか。
事務局	こちらには「引き続き居住」と書いてあります。入所にあたり、区内に住所があるということの確認のため、住民基本台帳(住民票)の記録を利用しています。これについては住民基本台帳施行令があり、保管期間が5年間までということになっています。したがって、履歴を調べることが可能な期間は、区を転出してから5年間までしか遡れないということです。確認事務に差が出てしまうということで、基本的に「引き続き居住」ということにさせていただいています。お気持ちはお察ししますが、事務手続き上、確認できないのでご理解いただきたいと思います。
委員	そのときの住民票の写しを持っていても、考慮されないのでしょうか。
事務局	すべての方にそのような対応ができません。あくまでも公平性を確保するため、確認ができる期間での対応とさせていただいています。
会長	今の件に申し添えますが、この委員をやっていると、毎年優先順位について、区で利用者の方の声を聞き、微調整を重ね、現状に至っていることがわかります。
委員	申込みをされる方だけでなく、見学の希望件数もものすごく多くなっています。4月から問合せがあり、9月～10月には毎週土曜日に10人規模で園長が説明しています。これに対応すると、現場の保育士が大変疲弊しますので、昨年度から区の方に来ていただき、説明をしてほしいという希望をしています。その後、検討はされていますか。
事務局	昨今の待機児童の多さから、各園での見学希望者が多くなっていることは承知しております。小規模保育所、私立保育園、認証保育所等がありますが、そのすべてに区の職員が対応するという事は、なかなか難しくなっており、各園のご協力をお願いしている状況です。
委員	例えば、各園が撮影した動画を、区のホームページに載せるというような方法が考えられませんか。このままでは、見学によって保育の質が落ちるといった事態があり得ると思いますが、いかがですか。
委員	子どもを連れていくと、インフルエンザ等の感染もあり得ます。保育園の先生方はしっかりと説明をしたいと思いますが、さらりと早く終えたほうがお互いのためだと思います。私はたくさんの園とかかわりがありますが、どの園でも一生懸命に取り組まれているの

	で、それほど違いはないと思います。保護者の方には申し訳ないのですが、そのように伝え、外側だけ見て、手短かに帰るようにお伝えしてみてもいいでしょうか。
委員	預ける側の保護者としては、大事な子どもを家庭よりも長い時間預ける場所ですので、ぜひ一度見てから、第1希望、第2希望の順位を決めたいということは、当然の親心だと思います。区は制度を説明することはできますが、保育園の説明をすることはできないのでその場においてもあまり意味がないと思います。保護者は、区で聞ける話は区で聞いているので、保育園のことを園長や職員から直接聞きたいという想いで見学に来ています。それに対応できないということは、いかがなものかと思います。
委員	おっしゃるとおりで、保護者の方の気持ちも分かりますから、私どもでは邪険に扱うこともなく、園長を中心に保育士が対応しています。ただ、区の方が来て話すということは一例であり、何か改善策を出せるようであれば、一緒に考えていきたいと思っています。区の制度も説明していますが、全体的な保育に関する区の制度について、年に何回か説明をする機会を設けていただくとか、保育園の見学についても、例えば見学に対する補助金を出していただくということも考えられます。補助金が出るのであれば、保育士の気持ちが変わると思います。従来のおりではなく、何か改善策を見出さないといけないと思います。私どもは1園しか実施していないので、かなり疲弊しています。
事務局	いろいろなご意見をありがとうございます。良い策があれば、協力して検討していきたいと思っています。見学の事例ではありませんが、受入定員が2歳までの園については、制度が理解しにくいということで、区の職員が赴き、その後の入園手続きについての説明会も実施しています。見学会について対応できるかどうかは微妙なところですが、ぜひ一緒になって、改善に取り組みたいと思いますので、ご協力いただきたいと思います。
委員	私どもの園でも見学者の方は非常に多く、昨年度くらいから増えています。私どもでは平日16時～16時半に受け入れて、私が直接説明をしています。自分が不在のときや行事が入っているときには、見学は受け付けません。インフルエンザの話がありましたが、園内で感染症が出ているときには、その旨お伝えして確認し、場合によっては見学をキャンセルさせていただいています。30年度4月や年度途中の入園希望者の見学者は、200～300名ほどで、ほぼ毎日3人来ている状態です。多いときには1週間ほど予約が取れない状態です。また、見学者を迎えてよかったと思うことは、直接保護者から話が伺えることです。その中で、いろいろな悩みをお聞きします。保護者は子どもたちを見たいと思うので、土日ではなく、平日に来ていただいています。土日に対応できないということもありますが、子どものいない空っぽのところを見ていただいても仕方がないと思いますので、子どもたちが実際に活動しつつ、あまり影響がない時間帯に見ていただくということで、平日16時を設定しています。
会長	3人の委員からお話を伺いました。待機児童に関しては、どうしても数で示されがちですが、もちろん数は重要ですが、背後で先生方の努力があるということを見る機会になりました。どのように折り合っているか、区の方も手厚くかかわってくださっているということです。この議論を進めていただければと思います。よろしければ(4)を終了します。

(5) 認証保育所保育料負担軽減助成金の改正について

事務局	(資料8について説明)
委員	保育料が2万円未満のとき、1万5,000円が補給されるということはおかしいと思い、以

	前からご意見を出していたところです。これについては問題ないと思います。4万円から2万5,000円のところですが、32年度から急に2万5,000円になることを考えると、保育料を下げざるを得ないと思います。そうすると30年度で引上げなければいけないのかと考えてしまいます。
事務局	表面の記載のとおり、上限を上げるということですが、平成28年9月9日付けで東京都において、この上限金額に上げるということが打ち出されました。ただ、これも平成31年度までの時限的措置です。今後、都の動向等も見て、対応できる場所には対応していきたいと考えていますが、現在のところは、この内容とさせていただきたいと思います。
委員	実際に、どの価格帯の方が一番多いのですか。
事務局	この分類では2万円未満の方が一番多くなっています。
委員	実際に払っている金額よりも多い補助金をもらっている方が多いということですか。
委員	払っている以上にはもらえません。
委員	公的保育園との差額よりも多くの補助金をもらっている方ということですね。
委員	認証保育所のほうが、保育料が低くても、補助が出ているということです。

(6) 協同的学びプロジェクトの公開保育について

委員	(議題(1)での説明したこと以外について、補足説明)
事務局	(公開保育の申込状況について説明)
会長	このような特徴的な取り組みをしていますので、委員の方で参加希望の方は、早めに申込みください。よろしければ(6)を終了します。

(7) その他

事務局	(追加資料(2種)を説明)
事務局	議題(2)についての御意見等は、11月10日(金)17時までにお寄せいただければと思います。次回は、平成30年1月31日(水)18時30分から開催いたします。
委員	本日得た情報に、守秘義務はありますか。
事務局	今回の会議については、資料も含めて公開させていただいています。資料、議事録と合わせて、区のホームページにも公開いたしますので、お話ししていただいて問題ありません。
会長	他にいかがでしょうか。よろしければ報告事項を終了します。

4 閉会

会長	平成29年度第4回墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会および墨田区子ども・子育て会議を閉会します。
----	--

以上